

# 社内外連携による物効法対応と物流持続性向上の取組み

2026年3月9日  
株式会社J-オイルミルズ  
執行役員 SCM統括部長  
畑谷一美  
(物流統括管理者)

# 自己紹介

1991年 味の素(株)入社

2003年 物流企画部 ECRグループ  
// 物流グループ

2008年 味の素物流(株)  
受注事業部長 (初代)

2015年 味の素(株) 復職  
物流企画部 物流グループ長

2019年 (株)J-オイルミルズ

2021年 サプライチェーンコントロールセンター長  
2022年 執行役員就任  
~現在に至る

## 【主な従事業務】

・EDI推進、GCIジャパン(流通BMS/GTIN) 参画  
・受注業務管理

・味の素グループロジスティクスプロジェクト推進  
・受注センター受託(BPO) 事業立ち上げ~運営

・F-LINEプロジェクト立ち上げ、F-LINE(株)設立  
・物流業務管理、物流BCP対応

・子会社統合、オンラインショップ(自社EC) 立上げ  
・コロナ禍需給対応、品質保証担当

# Agenda

- JOYL企業概要
- 社内連携スキーム
- 個別事例紹介
- 社外連携スキーム

# I. JOYL企業概要 / 特徴

- ・商号 : 株式会社J-オイルミルズ
- ・所在地 : 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー
- ・設立 : 2002年4月
- ・事業内容 : 食用油および油粕等の製造業
- ・従業員数 : 1,275名 (2023年度末)
- ・企業理念 : Joy for Life~食で未来によろこびを~

おいしさ×健康×**低負荷**で人々と社会と環境への喜びを創出

冷蔵車



ダンプカー



タンカー (外航・内航)



大型ローリー



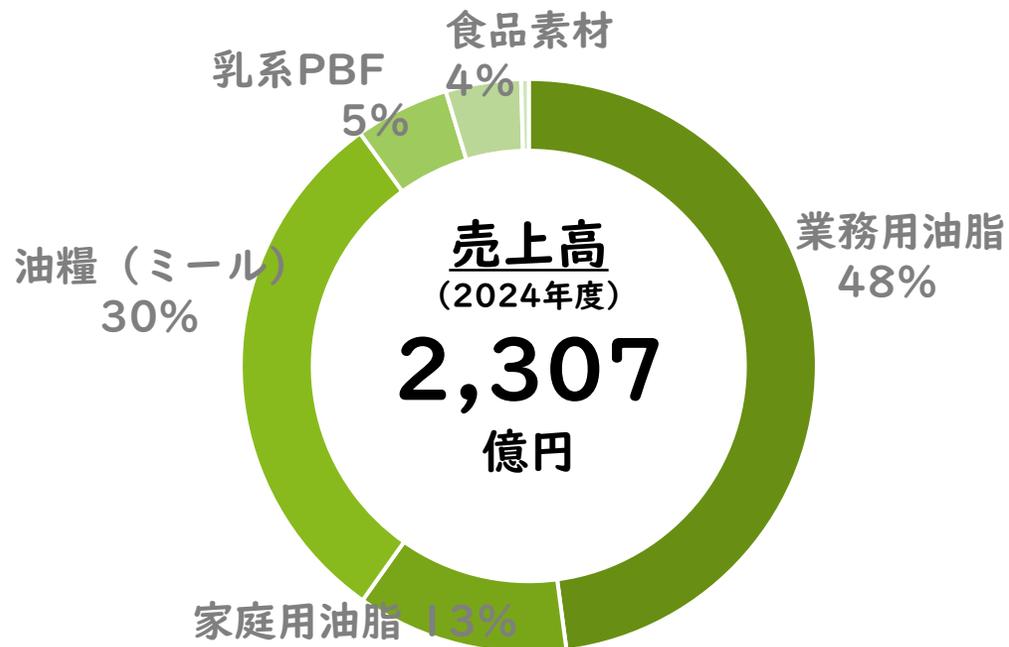
ミニローリー



トラック・トレーラー



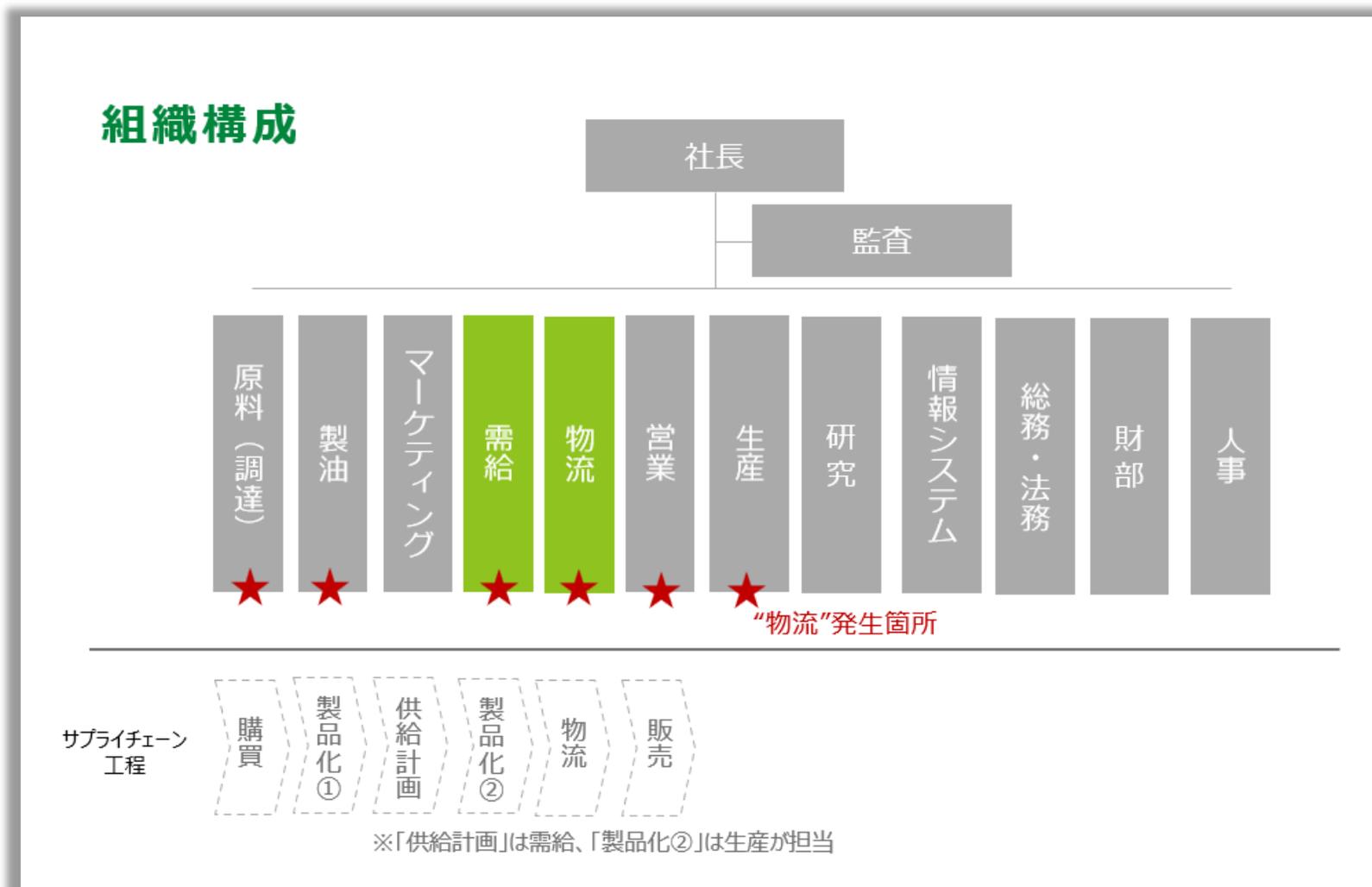
フェリー/RORO船



複数の“物流”とそれぞれの物流課題

## 2. JOYL企業概要/特徴

### 複数組織で構成する社内サプライチェーンと“物流”



# 3. 物流持続性向上取り組み

## 社内施策と社外連携

分類	取り組み	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
社内	サステナビリティ委員会への「外装標準化分科会」設置	10月 設置	12月 リリース		1月 リリース	8月 リリース	
社内	「SCM全国会議」での物流環境周知	1月	1月	1月	1月	1月	
社内	サステナビリティ委員会への「物流分科会」設置		4月 設置				
社内	トラック・物流Gメン「働きかけ」等提起				7月 9月	6月 8月	
社外	業界団体を通じた行政との対話		2月 ローリー提起		6月 FSPPP	12月 パブコメ	8月 パブコメ
社外	「自主行動計画」・物流統括管理者決議			12月 経営会議 &リリース		12月 経営会議	
社外	競合との物流協議体「YBM会議」設立				準備委員会	7月 リリース	
社外	物流事業者との対話強化						

● : 社外へのプレスリリース

6月  
政策パッケージ公表

4月  
新物効法施行  
(努力義務)

4月  
改正物効法  
(特定荷主)

# Agenda

- JOYL企業概要
- **社内連携スキーム**
- 個別事例紹介
- 社外連携スキーム

# 4.社内連携スキーム①

## 物流事業者の負荷軽減/社内横断取組み

### 外装表示見直し

誤納品への本質的対応

～物流事業者に“探させない”“迷わさせない”～

味の素社「外装ガイドライン」制定（一括表示/ルール）

※納品書記載と外装表示の一致



→グループ各社や業界他社（F-LINEプロジェクト各社他）へ呼び掛け

←当社も同調して味の素社「外装ガイドライン」流用

状況：流通量の多い商品は一括表示へ移行したが、未移行商品も多数存在。。

課題：一括表示化を牽引する組織と権限が無い

対応：サステナビリティ委員会への「外装標準化分科会」設置

分科会長：SCM統括部長

開始：2021年10月～



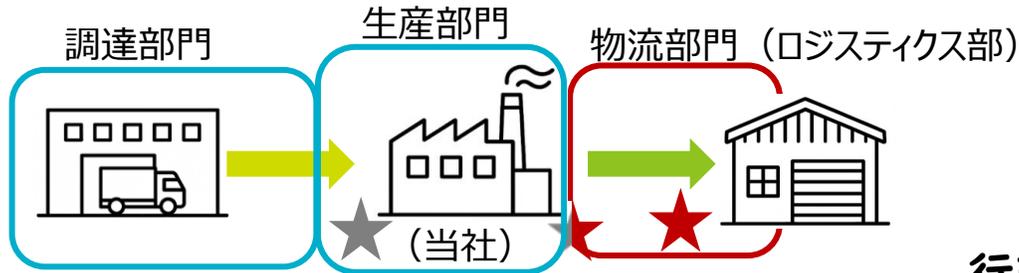
現在の状況

- ①外装表示ガイドライン作成
  - ・一括表示への移行完了
- ②賞味期限年月表示への移行
  - ・家庭用完了
  - ・業務用移行中
- ③デザインforロジスティクス（DFL）対応

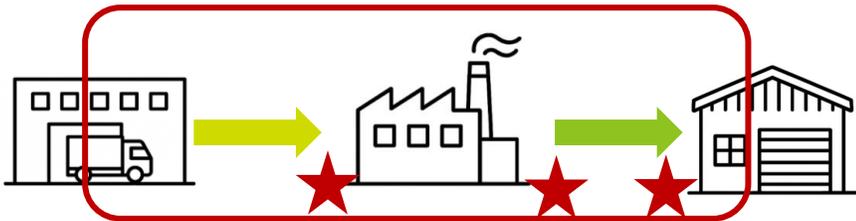
# 5.社内連携スキーム②

## 物効法を見据えた発荷主・着荷主の一元管理

【2023年6月政策パッケージ】

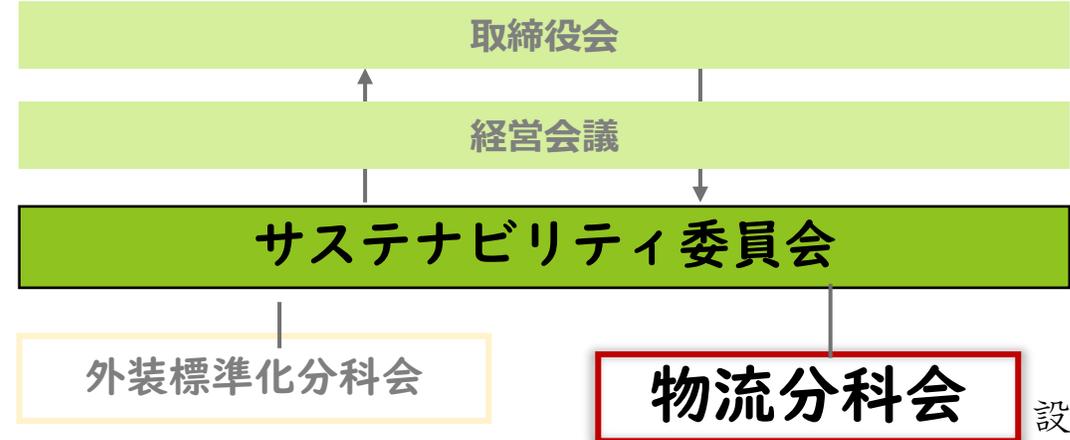


発荷主、着荷主を  
どう管理するか？



行政動向  
を念頭に  
社内連携体制  
を構築

全社“委員会”スキーム活用



- 開始: 2023年4月～
- 頻度: 毎月開催 ※2025年度からは隔月
- 分科会長: SCM統括部長
- メンバー: 営業統括部、生産統括部、原料部、マーケティング部
- 内容: **社外動向報告** (行政/業界/他社)  
**社内物流トピックス報告**  
**発荷主および着荷主の業務改善共有**  
※トラック予約システム導入による時間管理  
物流会社改善要望の進捗共有  
サプライヤーへの物流要望アンケート 等

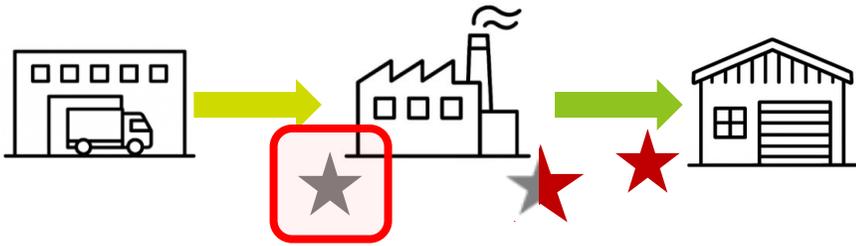
# Agenda

- JOYL企業概要
- 社内連携スキーム
- **個別事例紹介**
- 社外連携スキーム

# 6. 個別取組み①

## 「着荷主」責任の全う

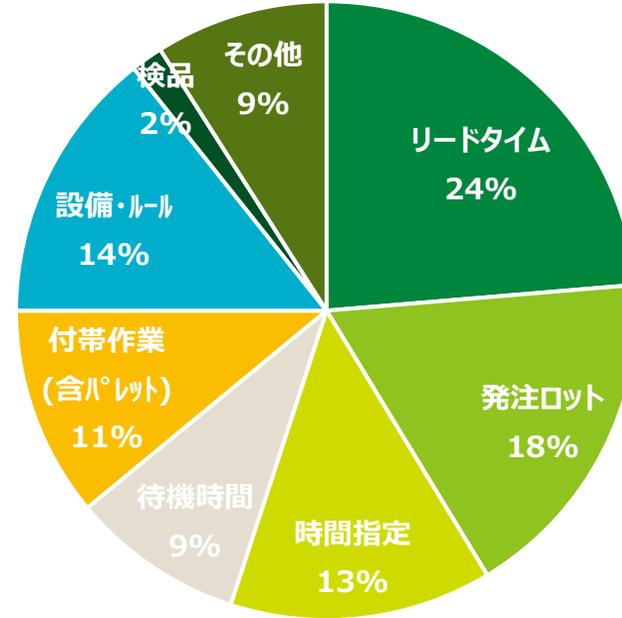
着荷主状況の把握



物流分科会による  
**「サプライヤーアンケート」実施**  
 対象：全サプライヤー（調達先企業）  
 時期：2023年7月  
 内容：物流改善要望の収集

質問
①「積載効率の向上」において、課題となっている事、要望はありますか？
②「荷待ち時間の短縮」において、課題となっている事、要望はありますか？
③「荷役等時間の短縮」において、課題となっている事、要望はありますか？
物流・配送に関して、課題となっている事、要望はありますか？

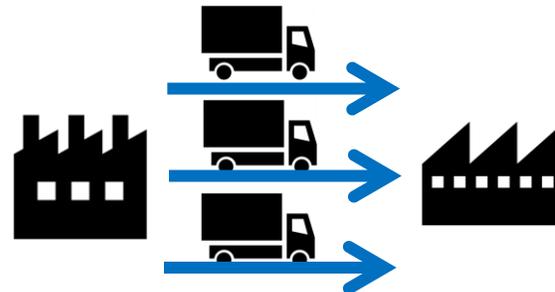
## 改善要望（計300件）



2023年実施分は  
 2年を掛けて  
 ほぼ対応完了

2025年10月  
 第2回アンケート  
 実施  
 ※取組中

### 改善事例



- ・時間指定のため複数台で納品
  - ・機械トラブル等で待機発生、後続も待機
- サプライヤー及び搬入物流会社との協議  
 1台のラウンド運行へ切替/待機ゼロ

# 7. 個別取組み②

## 行政指摘を契機とした業界商習慣是正チャレンジ

2024年6月 国交省トラックGメンからの「働きかけ」指摘 → 搾油工場での長時間待機



搾油

植物油

ミール (油粕)

ローリー

ダンプカー



長い積み込み時間  
→ 物流会社との  
定期的協議

### 飼料業界の習慣習

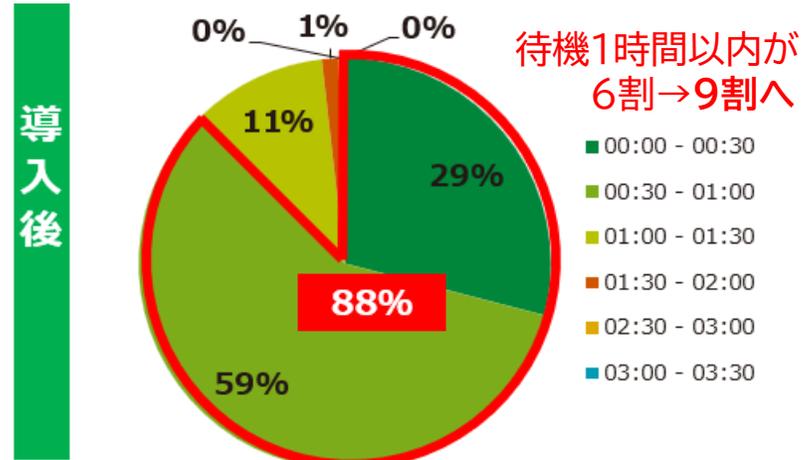
- ・時間指定概念無し
- ・50%以上の引き取り物流  
→ 工場開門前からの車両待機  
※2回転車両の存在

年	月	項目	60分未満	60～90分	90～120分	120～150分	150分以上
2024	6	台数	309	117	49	12	4
		割合	62.9%	23.8%	10.0%	2.4%	0.8%
2024	7	台数	259	107	39	17	11
		割合	59.8%	24.7%	9.0%	3.9%	2.5%

### 【トラック予約システムに合わせた時間指定制の導入】

- ・車両サイズに合わせた積み込み時間設定と時間指定導入
- ・導入説明会の複数開催 (自社および取引先様の物流会社)
- ・トラック予約システムへの事前登録

2024年12月～2025年1月累計



→ 取引先様を通じた他メーカー様からの問合せ

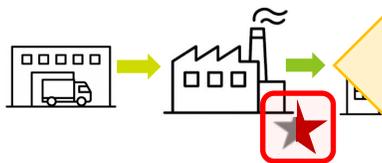
# 8. 個別取組み③

## 行政問合せを契機とした従来慣習の是正

2025年6月  
国交省トラック・物流Gメン  
からの問合せ

ドライバーから  
積み込み時に  
検品をさせられている  
との提起があった。  
事実確認したい。

事実なら発生経緯を  
教えて欲しい。



運輸局への  
対応結果報告

【現場確認】ドライバーに積み込み時検品を依頼している  
※工場荷役担当のチェック済みピッキングリストを渡して  
ドライバーに数量等のチェックを依頼

【発生経緯】過去納品時に何らかのトラブル(数量や外装)があり始まったと推定  
※時期等詳細不明

【対応検討】社内議論と同業他社との意見交換による今日のかつ合理的対応の検討

明確化



【対応】  
**工場荷役業務の明確化による全工場でのドライバー検品の廃止 (2025年8月末)**

- ・工場荷役業務委託先との協議による業務文書化
- ・物流会社への当社方針の連絡

# Agenda

- JOYL企業概要
- 社内連携スキーム
- 個別事例紹介
- **社外連携スキーム**

# 9. 社外連携スキーム①

## 業界団体を通じた植物油ローリー物流の課題提起



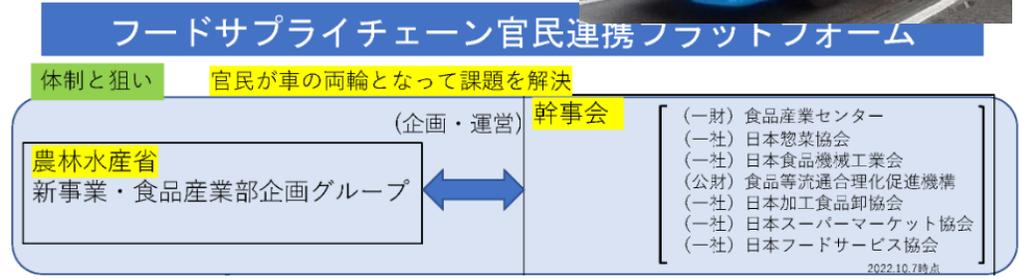
### 日本植物油協会「流通システム生産性向上検討委員会」

- 2022年2月 農水省・食品流通課との意見交換  
→植物油ローリー物流の実情を提起  
物流会社状況、車両事情、ドライバー作業
- 2024年7月 農水省・食品製造課 提案による  
フードサプライチェーン官民連携プラットフォーム  
(FSPPP)での「植物油ローリー物流の課題」発表
- 2024年12月 物効法・判断基準に関する農水省・食品製造課  
との意見交換、およびパブリックコメント提出  
植物油ローリーの業務特性
- 2025年12月 日本植物油協会ホームページへの資料掲載  
→ 業界専門誌への記者説明会

持続可能なバルクローリー物流のために

2025年12月19日  
日本植物油協会

課題	取組
1. 高所での納品作業 納品作業の高所作業は発生時には安全対策措置として高所立ち昇りも許される可能性がある	1. 安全対策設備の設置や高所作業の軽減 高所作業の発生を抑制し、安全対策措置による高所立ち昇り作業の軽減
2. 品質・衛生確保 作業ミスや漏洩による異物混入、油漏れ、納品タンク内等の重大事故に注意	2. 納品作業のユーザー様立ち会い ドライバーの責任、種別ごとの作業内容明確化
3. オーダーの納期変更・キャンセル 納品日調整でのオーダー変更やキャンセルの割合が比較的高い	3. 直前の納期変更やキャンセルの回避 ローリー車は台数が限られており、すぐに手配することは困難
4. 納品遅延 納品遅延が顧客の製造計画に影響を及ぼすことも特長な製品では納品・後品ロスにつながる場合も	4. 納品環境の改善 納品時間の短縮、将来的には受入タンク設備の検討
5. 納品環境 納品先設備のタンクレベル計の動作不具合や故障によるオーバーフロー	5. 納品設備の管理・メンテナンス ドライバーが安全に納品するための設備メンテナンスの依頼



### 2025年9月 物効法 判断基準の手引き

「業界特性等により荷役等時間の短縮が困難な場合」としては、以下に列挙された類型のみを認めることとします。

※ なお、以下の事情に該当する運行が一部あることにより、全ての施設・運行で「やむを得ない場合」があると判断されるものではなく、荷待ち時間等を1時間以内とするを旨とすることができるものについては、これに向けて取り組んでいただくことが必要です。

(1)特殊車両を用い、立会い、洗浄等の附帯作業が必須となる場合

- ローリー車、バルク車等を利用しており、積載する製品の特性(粘度が高い等)や漏洩確認、均平化等の作業上、技術革新がない限り、荷役等時間を短縮できない。
- ローリー車、バルク車等を利用しており、危険物施設において防爆対応が必要であるためポンプ等を用いずホースで荷卸しすることから、技術革新がない限り、荷役等時間を短縮できない。

○食品衛生上の検査が求められる場合

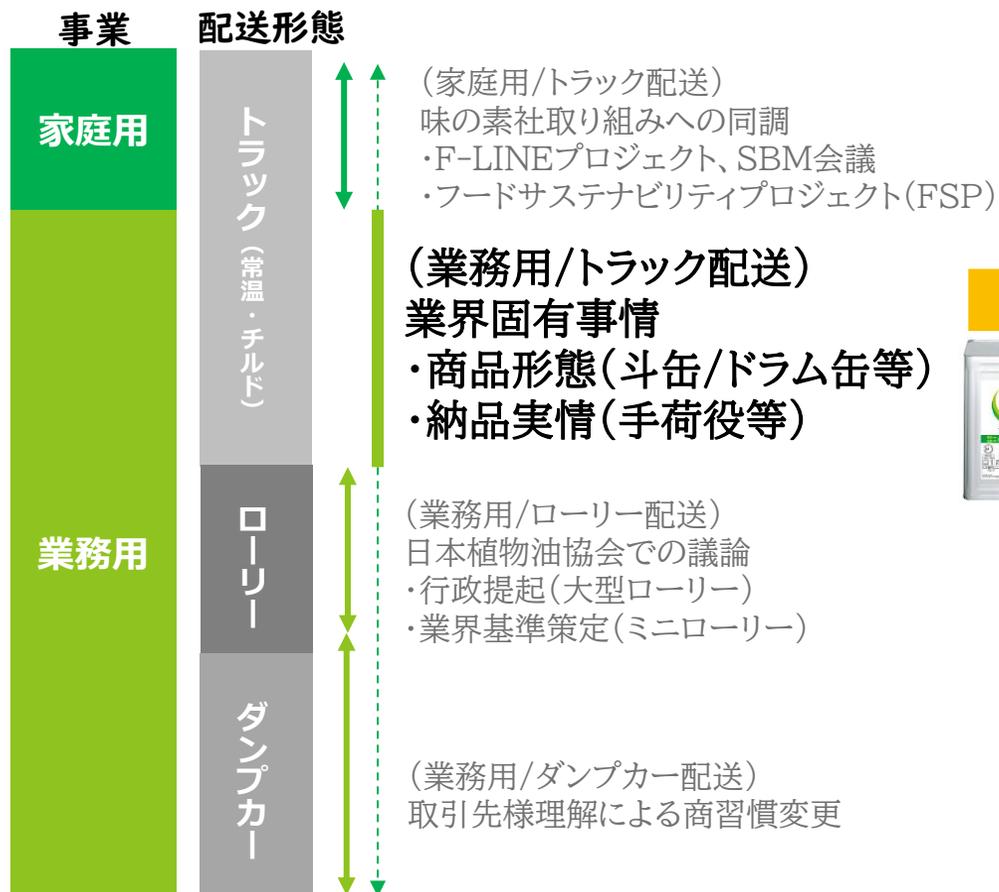
- 生乳等の輸送に当たっては、衛生検査の分析待ち等のために時間を要する。

→ 2時間ルールへの事情考慮

# 10. 社外連携スキーム②

## 業界固有課題への競合企業との協業

### 「YBM会議」(油脂食品物流未来推進会議)



2025年7月  
プレスリリース

2025年7月24日

報道関係各位

株式会社 J-オイルミルズ  
日清オイリオグループ株式会社  
昭和産業株式会社  
一般社団法人日本植物油協会

**植物油業界の持続可能な物流のための協議体  
「油脂物流未来推進会議」を発足**

株式会社 J-オイルミルズ(東京都中央区、代表取締役社長執行役員 CEO 春山 裕一郎)、日清オイリオグループ株式会社(東京都中央区、代表取締役社長 久野 貴久)、昭和産業株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 塚越 英行)の3社は、業界団体である一般社団法人日本植物油協会(東京都中央区、会長 佐藤 達也)と連携のうえ、食用油脂業界における物流問題の解決を進め、物流持続性を向上させることを目的とした協議体「油脂物流未来推進会議(通称:YBM会議)」を発足することを決定いたしました。

- ・具体的事例の共有と解決策検討(発荷主・着荷主)
- ・行政業界動向の情報収集と共有
- ・業界団体への提案による横展開

※輸送では船舶(タンカー/フェリー/RORO船)も利用

# Agenda

- JOYL企業概要
- 社内連携スキーム
- 個別事例紹介
- 社外連携スキーム

# 11. 社内連携スキーム③

全社での“物流環境”認識合わせ ※社員への物流教育

## 「SCM全国会議」

- ・2021年度から「物流」を中心議題化
- ・参加者：社長、営業、工場、SCM統括部 約200名
- ・主催：SCM統括部
- ・開催頻度：年一回
- ・内容：**物流環境説明**、物流改善取り組み（発荷主・着荷主）※社外連携や行政指摘等を含む

回数	実施年度	アジェンダ
第1回	2020年度	需給メカニズム共有
第2回	2021年度	社外物流環境説明、ロジスティクス部施策説明、在庫適正化議論
—	2021年度	【特別講演】国土交通省 物流政策課による「2024年問題対応」について
第3回	2022年度	社外物流環境説明、ロジスティクス部施策説明、在庫適正化議論
第4回	2023年度	社外物流環境説明、ロジスティクス部施策説明( <b>納品リードタイム延長</b> 他)
第5回	2024年度	社外物流環境説明、ロジスティクス部施策説明、在庫適正化議論
第6回	2025年度	社外物流環境説明、ロジスティクス部施策説明、在庫適正化議論

行政動向、業界状況、競合他社との取組みを共有

## 物流関連法施行に合わせた今年度の会議

### 「第6回SCM全国会議」

- ・日常生活への影響も勘案して**物流業務従事者以外にも参加呼びかけ**（参加者：約270名）
- ・法の内容に加えて背景も説明
- ・会議前にYouTube動画を投影



※（出典）YouTube国土交通省MLITchannel  
YouTube公正取引委員会チャンネル



**社会課題や要請を起点**としたご説明により、その必要性が**社員それぞれの立場から何ができるのか、何をすべきなのか**ということの**自分事化**するための非常に貴重な機会であると感じました。

# Agenda

- JOYL企業概要
- 社内連携スキーム
- 個別事例紹介
- 社外連携スキーム

# 12. 社外連携スキーム③

## 物流事業者との対話強化

### 業界やサプライチェーン全体を意識した協議

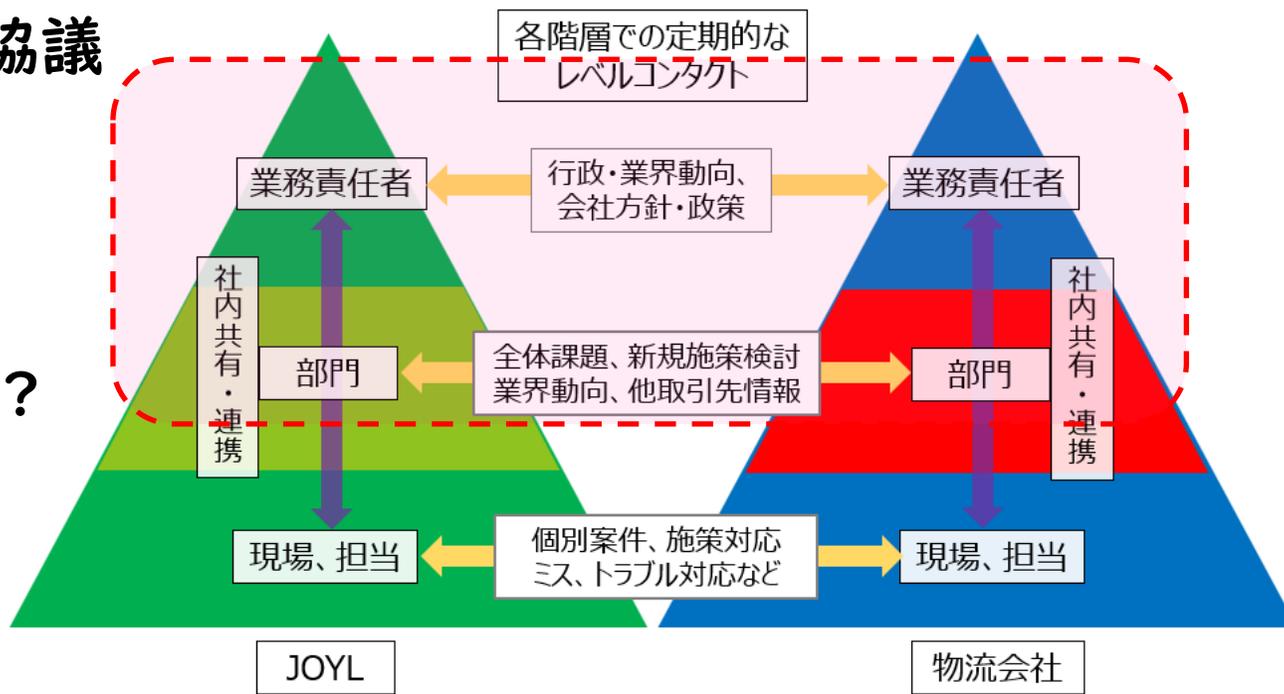
これまでの物流会社との協議は  
現場間や窓口担当による  
ミス・トラブル、改善案件、料金交渉が中心

### 当社取り組みの目的や意図を伝えきれているか？

- ・外装表示見直し
- ・納品リードタイム延長
- ・業界他社との物流持続性協議
- ・社内での物流教育 他

### 物流会社と目指す方向は同じか？

物流会社経営層  
との協議強化  
(2025年度～)



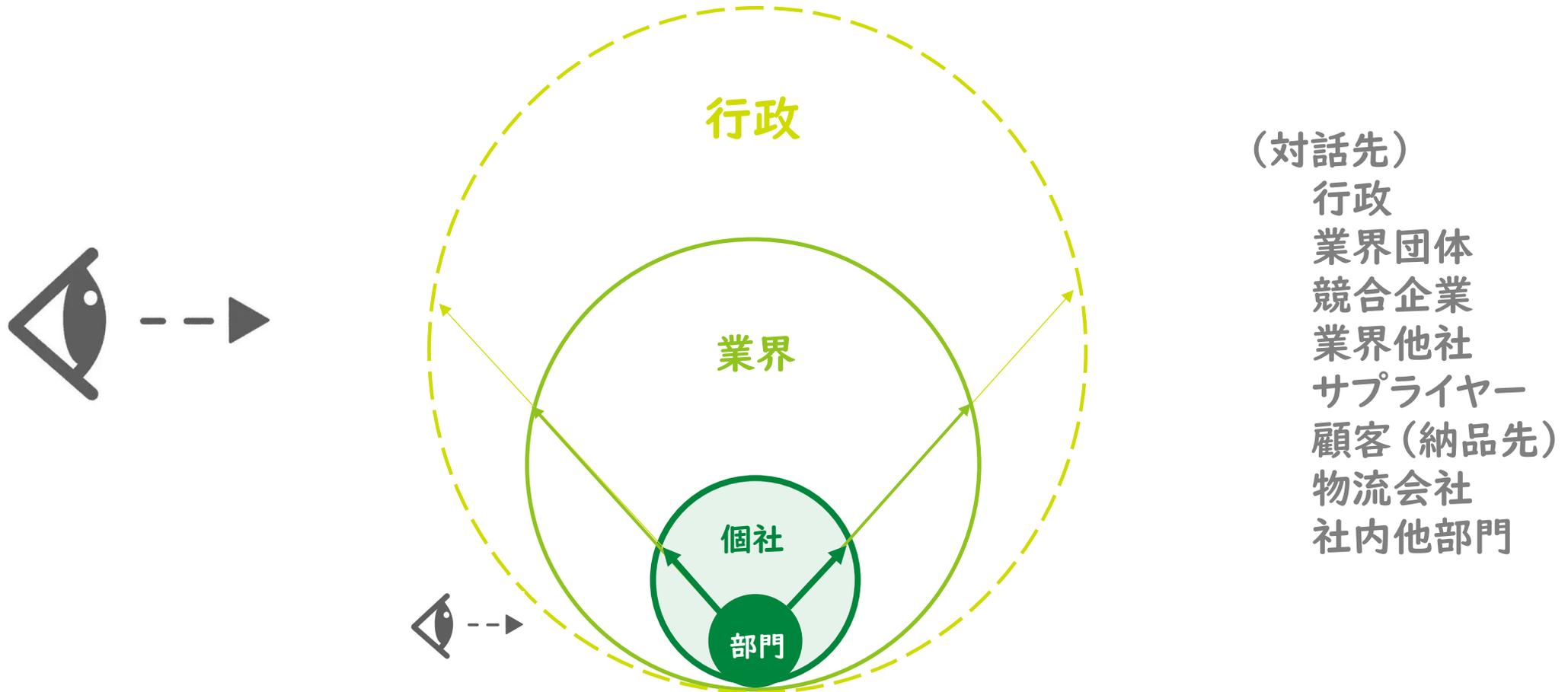
### 両社役員レベルも参加した政策協議（定期開催）

- ・メーカーでしか出来ない事
- ・物流会社でしか出来ない事
- ・両社で行う事



# 13. 物効法対応と物流持続性向上

社内と社外の関係者との「対話」で進める物流改善





JOYL

Joy for Life

## 出典)

### 1 1. 社内連携スキーム③

※ YouTube国土交通省MLITchannel  
物流魅力発信アニメ「あれも、これも、物流なんだ。」(サーバーガー篇) 30秒  
[Bing 動画](#)

YouTube公正取引委員会チャンネル  
改正！トリテキ法～④対象取引に特定運送委託を追加～  
[Bing 動画](#)